

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17005

建築物名称	(仮称)革新的医療産業創出推進拠点計画
建築主	CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長 山海嘉之
建築物の所在地	川崎市川崎区殿町3丁目102番7、102番8、102番18、102番19
設計者氏名、建築士事務所名	一居康夫 株式会社大林組 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	19,981.82m <sup>2</sup>
用途	事務所、病院、飲食店、駐車場、ホテル、集会所
構造	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	平成31年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

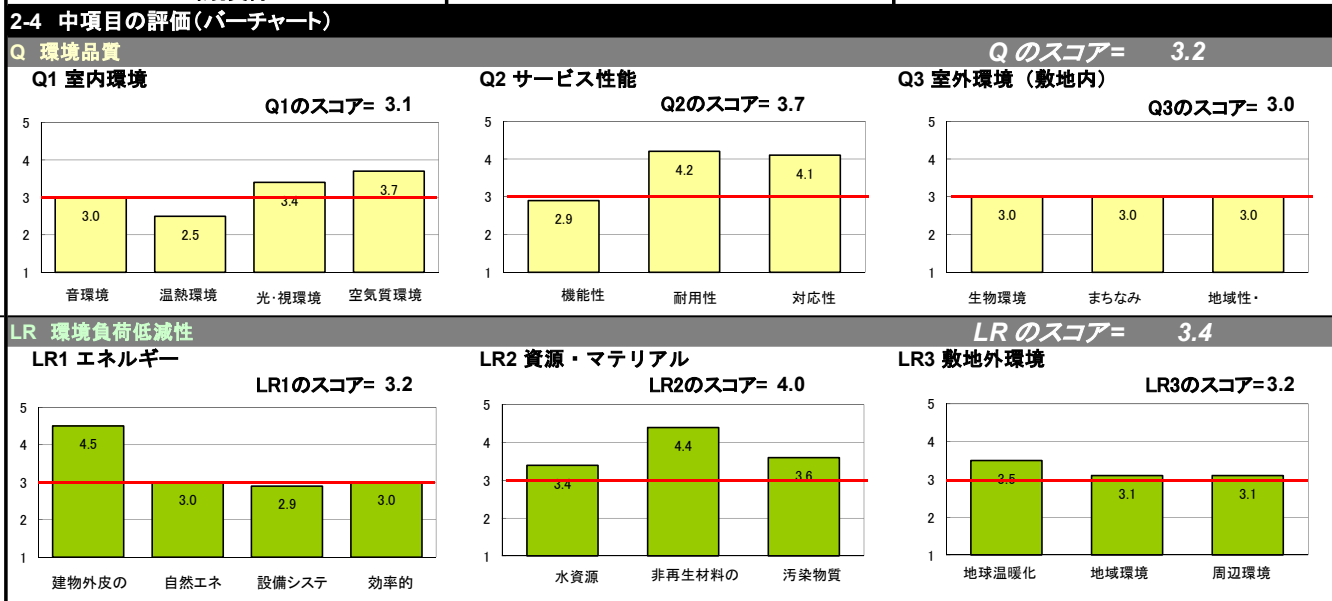
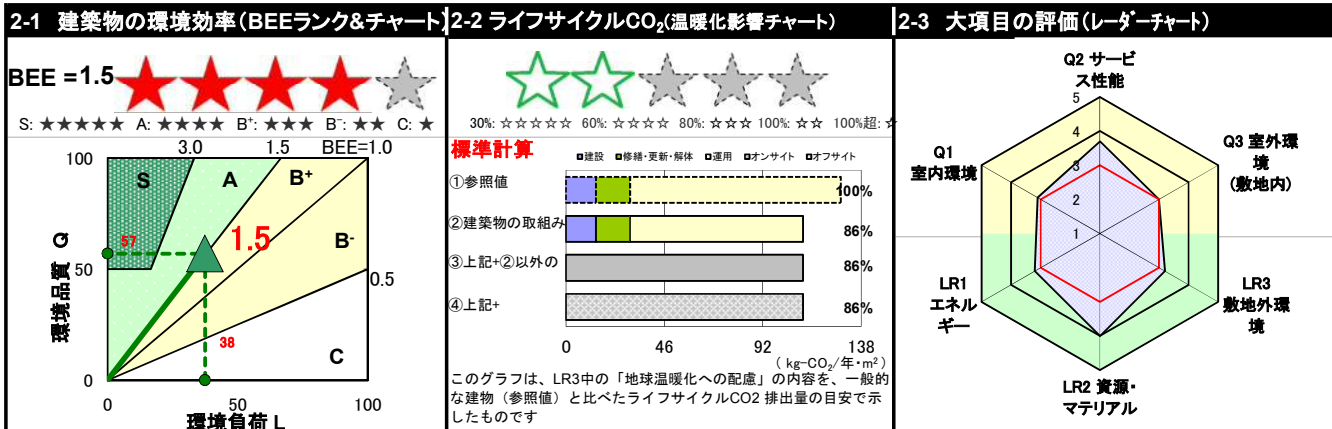
# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)革新的医療産業創出推進拠点計画	階数	地上5F
建設地	川崎市川崎区殿町三丁目102番7,102番8,102番18,102番19	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,880時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年5月8日
敷地面積	15,434 m <sup>2</sup>	作成者	伊藤昇
建築面積	4,679 m <sup>2</sup>	確認日	2017年5月8日
延床面積	19,982 m <sup>2</sup>	確認者	一居康夫



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 敷地内温熱環境の向上	外構緑化:川崎市緑化指針に適合している。 植栽により、良好な景観を形成している。 空地を多く設け、高温排熱を伴う設備機器の設置は特にならない。	2.6/4.3	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境に配慮した隣棟間隔を確保している。	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.3</b>
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	外装・屋根の断熱強化を行っている。 ブラインドによる昼光制御を行っている。	0.4/0.7	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	外構緑化:川崎市緑化指針に適合している。	1.4/2.3	3.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	外装・屋根の断熱強化を行っている。	3.3/5.0	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 フロン・ハロンの回避	節水器具を採用している。 OAフロア、分別が容易なLGS壁工法を採用。 ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。	3.8/4.7	4.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境に配慮した隣棟間隔を確保している。	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.9</b>
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数の長い建築・設備材料を使用している。	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水器具を採用している。 リサイクル材を使用している。	3.3/4.0	4.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐車場及び荷捌き用駐車場を確保している。	0.3/0.4	3.9
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>3.1</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	外構緑化:川崎市緑化指針に適合している。 空地を多く設け、高温排熱を伴う設備機器の設置は特にならない。	1.4/2.3	3.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	外装・屋根の断熱強化を行っている。	3.3/5.0	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境に配慮した隣棟間隔を確保している。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉スラグ・フライアッシュを躯体に使用している。	1.1/1.3	4.0
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	外装・屋根の断熱強化を行っている。	3.3/5.0	3.3

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.7	
<b>1 機能性</b>					<b>2.9</b>	0.40		<b>2.9</b>	
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>					<b>2.3</b>	0.40			
1	広さ・収納性				3.0	0.33			
2	高度情報通信設備対応				1.0	0.33			
3	バリアフリー計画				3.0	0.33			
<b>1.2 心理性・快適性</b>					<b>3.3</b>	0.30			
1	広さ感・景観			天井高さ2.7m。	4.0	0.33			
2	リフレッシュスペース				3.0	0.33			
3	内装計画				3.0	0.33			
<b>1.3 維持管理</b>					<b>3.5</b>	0.30			
1	維持管理に配慮した設計			清掃性及び防錆対策などの配慮。	4.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>4.2</b>	0.30		<b>4.2</b>	
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>					<b>5.0</b>	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			耐震性の割増を行っている。	5.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能			免震構造を採用している。	5.0	0.20			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>					<b>3.5</b>	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用している。	5.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		耐用年数の長いダクト材を使用している。	4.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		耐用年数の長い配管材を使用している。	5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20			
<b>2.4 信頼性</b>					<b>3.6</b>	0.20			
1	空調・換気設備			節水器具の採用、受水槽に災害時用の水栓を設置。	3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3	電気設備			非常用発電機の設置、UPSの設置、受電設備の二重化、電源設備の浸水対策。	5.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>					<b>4.1</b>	0.30		<b>4.1</b>	
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>4.6</b>	0.30			
1	階高のゆとり			階高は3.9m以上である。	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			共用部分 壁長さ比率は0.3未満である。 設計床荷重の割増がされている。	4.0	0.40			
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					<b>5.0</b>	0.30			
<b>3.3 設備の更新性</b>					<b>3.2</b>	0.40			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性			仕上材を痛めずに改修・更新が可能である。	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G W H	<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G	<b>3.0</b>	0.40			<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>					<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>					<b>3.0</b>	0.50			
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G W H	<b>3.0</b>	0.50			

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4		
LR1 エネルギー						-		0.40		-		3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	BPI <sub>m</sub> =0.85		4.5	0.20				4.5	
2 自然エネルギー利用	W		H			3.0	0.10				3.0	
3 設備システムの高効率化	W		H	[BE][BE <sub>m</sub> ] = 0.82		2.9	0.50				2.9	
4 効率的運用						3.0	0.20				3.0	
集合住宅以外の評価						3.0	1.00					
4.1	モニタリング	W		H		3.0	0.50					
4.2	運用管理体制	W		H		3.0	0.50					
集合住宅の評価												
4.1	モニタリング	W		H								
4.2	運用管理体制	W		H								
LR2 資源・マテリアル						-		0.30		-		4.0
1 水資源保護	W		R			3.4	0.20				3.4	
1.1	節水			給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している。		4.0	0.40					
1.2	雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60					
1	雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70					
2	雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30					
2 非再生性資源の使用量削減						4.4	0.60				4.4	
2.1	材料使用量の削減	W		R	免震構造の採用等。	4.0	0.11					
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.22					
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R	基礎梁：フライアッシュ、高炉スラグ	5.0	0.22					
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R	床：ビニルタイル、天井：ロックウール化粧吸音板、断熱材	5.0	0.22					
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W		R		-	-					
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W		R	躯体と仕上材の分離が容易である。	5.0	0.22					
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.6	0.20				3.6	
3.1	有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料を1種類使用している。		4.0	0.30					
3.2	フロン・ハロンの回避					3.5	0.70					
1	消火剤	W				-	-					
2	発泡剤(断熱材等)	W			ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。	4.0	0.50					
3	冷媒	W				3.0	0.50					
LR3 数地外環境						-		0.30		-		3.2
1 地球温暖化への配慮	W			CO2排出率:86%		3.5	0.33				3.5	
2 地域環境への配慮						3.1	0.33				3.1	
2.1	大気汚染防止					3.0	0.25					
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W			3.0	0.50					
2.3	地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25					
1	雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25					
2	汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25					
3	交通負荷抑制			R	十分な駐車スペース、荷捌きスペースを確保している。	5.0	0.25					
4	廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮						3.1	0.33				3.1	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40					
1	騒音					3.0	1.00					
2	振動					-	-					
3	悪臭					-	-					
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40					
1	風害の抑制					3.0	0.70					
2	砂塵の抑制											
3	日照障害の抑制					3.0	0.30					
3.3	光害の抑制					3.7	0.20					
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満足している。		4.0	0.70					
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30					